

市民の中から活力あるまちづくりを考えようという機運が盛り上がり、地域の特産品であった「やきそば」に注目し、各種のイベントの開催を通して情報発信力を高めました。

これが刺激となり、各種まちづくり団体が活発化し、主なまちづくり団体が「NPOまちづくりトッパー ふうのみや本舗」を結成し、連携、協力して中心市街地のまちづくりを進めています。

また、情報発信力が高まり、観光客も多くなったため、道路整備に伴う商店街再生に弾みがつくとともに、地元商店街が景観条例に基づく「美しいまちづくり協議会」を設置し、行政と話し合いながら自らの商店の改善などのハード整備を進めつつあります。

【中心市街地活性化計画の策定から生まれた「焼きそばのまち・富士宮市」の取り組み】

富士宮市は、浅間大社の門前町であり、富士の登山口として、また甲州地域と東海道を繋ぐ街道の宿場町として早くから発展したため道路は狭く、人口の増加に伴う自動車交通に対応できないばかりか、昭和 50 年代以降は大型店の南部地区への立地に伴い衰退してきたため危機感を強め、再生のために中心市街地活性化計画を市民参加で策定することとなりました。そこに集まった有志の中から、元気なまちを造ろうとまちおこしの素材を検討する中で、「やきそば」が、その製法、調理法において当市独自のものであり、店の数も全国的に多いことに気付きました。メンバーは、さっそく「やきそば学会」を組織し、富士宮のやきそばについて調査・研究を進めるかたわら、各地の焼きそば対決を行い情報発信し、全国的に知名度を高めました。

【次々と生まれる市民主体のまちづくり組織が協働してまちおこしを支える】

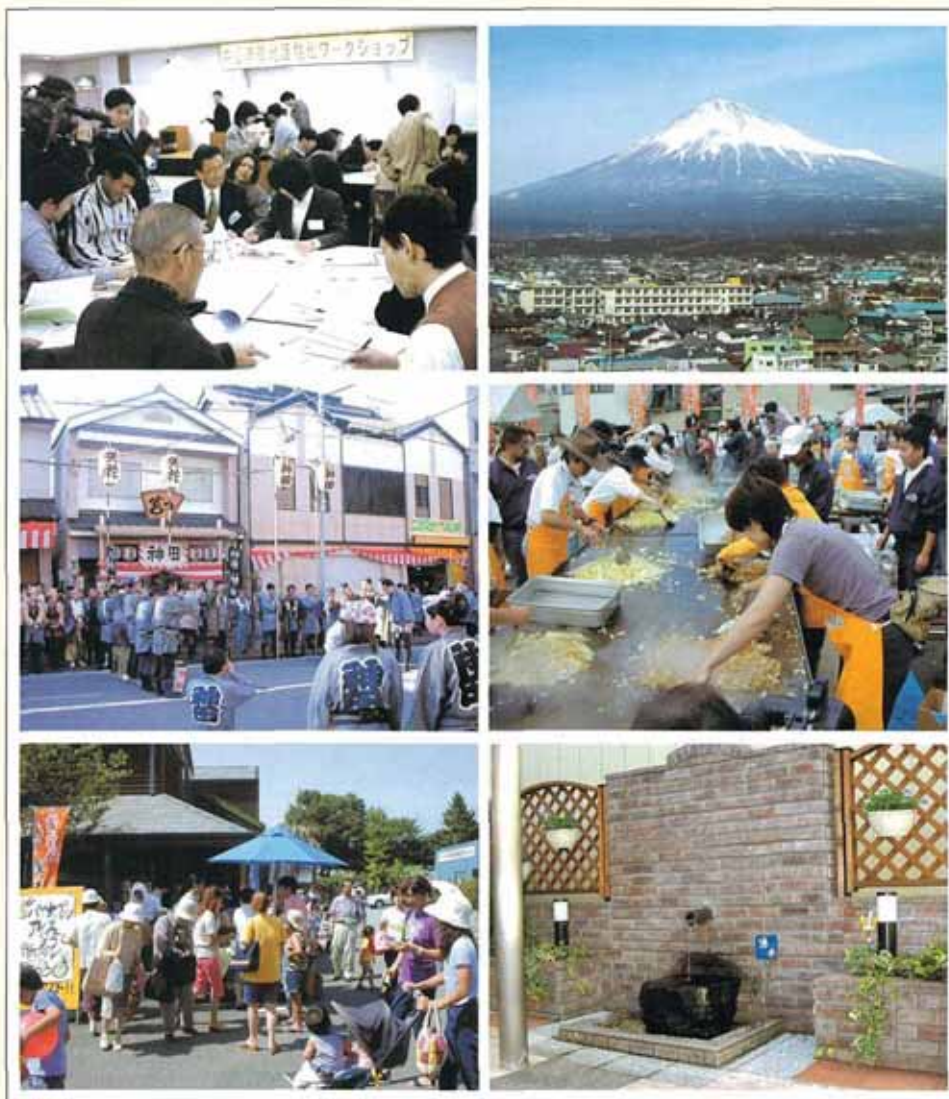
やきそば学会の他にも、「富士宮ビオトープをつくろう会」、「秋祭り Supporters Club」、にぎわい創出のためにフリーマーケットを企画するグループ、ITを通じてまちおこしをしようというグループなどさまざまな市民活動が生まれてきました。

平成 14 年 5 月には、これらのグループが横の連携を図るため「まちづくりトッパー ふうのみや本舗」というNPO法人を設立しました。また、商業者においても、商店街で駅前通おかみさん会が中心となって毎月 16 日に市（十六市）を開催するなどの積極的な動きも出てきた。

中心市街地には、まちづくりサロン「宮っ」が設置され、まちおこし団体のたまり場として活動の拠点となっています。

富士宮市中心市街地活性化基本計画

富士山を仰ぐ門前町と湧水のにぎわい空間のまちづくり



平成14年3月

富士宮市

* 出典：中心市街地活性化基本計画

【緒に付いたばかりのハード事業の推進が課題に】

市民のソフトな取り組みは、ますます意気盛んとなっていますが、まちのハード整備は、まだ緒に付いたばかりです。道路整備や鉄道高架化事業などの課題は山積しています。

また、基盤整備に合わせて周辺の街並み整備が進められつつあります。地区計画制度を活用して、門前町風の街並み整備を行う神田通り、三角屋根を持つ駅前通りなど、目標を持った秩序ある景観形成が進んでいます。



神田通りのイメージ



中央地区のイメージ



駅前地区のイメージ

